

## 運 輸 通 信

鉄道による輸送状況をみると国鉄、私鉄とも年々輸送人員も貨物の輸送量も増加している。32年中の千葉鉄道管理局内の乗車人員は2億人を越え、29年より4千万人増加した。私鉄も同年より1千5百万人殖え32年には7千万人が乗車した。特に郊外を走る私鉄は沿線に新しく住宅地帯が作られているので、その利用者は一段と増加するであろう。

自動車台数の増加は著しく、26年には約9千台であつたのが33年には4万5千台に近く5倍の増加をみせた。このうち貨物自動車が半数を占め県内の貨物輸送は勿論、他府県との物資交流に活躍している。用途別にみると自家用車が3万8千台で一番多く県下平均11世帯に1台の割となる。

また、旅客自動車による輸送人員も車の増加とバスの路線拡張などによつて殖え、32年には1億人余りを輸送し、30億円を上廻る営業収入をみた。

通信関係をみると郵便局数は336、ここで引受けられた普通通常郵便物は県民1人当り年間27通の割、電報電話局数は343、取扱われた電報は県民1人当り年に2.1通の割となる。また電話器数は総数58,497で県下7世帯に1台の割である。

### 鉄道の利用増加

(29年を100とした32年の指数)

